内郷村報

天ニ法人則
ルニ從順ナ
ベシ

前言訂正

磐城中學概觀

大内民惠

記者は昭和七年、本紙六月號に於て「縣下中等教員に望む」同八年四月號に於て「教育家の五臓六腑」の題下に、一般教育者に戒告を與へ、且つ明らさまには校名を擧げなかつたが暗に其當時の我磐城中學長幷に職員諸子に對し忌憚なき論評を加へ、其反省を促したのであつた

校改めていふ迄もなく、本郡の最高學府であり、中堅國民の養成所であつて、其興廢如何は一地方の消長に關する一大問題である事を慮つたからであつた。然るに昨春現

小檜山校長が、會中より轉じ來るや、鋭意改革刷新に努め、爲に面目一新し、漸次吾人の期待に近附きつゝある事を聞きて、心中ひそかに之を喜ぶと共に先きに本紙を讀まれたる人々に向つて

前言訂正の義務ある事を痛切に感じたので、去る六月十三日早朝より半日の間、同校を親しく參觀視察したのである。以下其概觀の大要を述べる。先つ校長の案内で

朝禮から見た。朝禮は上級生（四年以上―上級生扣室）下級生（三年以下―下級生扣室）の二組に分れ、全職員侍立の下に、校長と齋藤教頭とが、一日交替に訓辭をする事となつて居るとの事である。此日は校長が上級當番であつた。訓辭の内容は、知識も文字も共に確實に把握牢記せよといふ事であつたが、其諄々と話して聞かせる態度はさながら

慈父が愛子に物言ふが如くであり、之を靜肅に神妙に聞いて居る職員達も五百の健兒も、其面上何れも眞劍さが現はれて居つたには、先つ敬服させられたそれから約一時間同じく校長の案内で校舍の内外を見る。校内の一の一木一草は、何れもよく整頓されてあり、よく手入されてあり、牀は光り土には箒目が立つて居つた。

神

居るに、先方は何れも其席にあつて孜々として執務されて、煙草をふかしたり、雑談に耽けつて居る影なとは更に見うけなかつた。記者は僅かに

一時間、たゝ一端の參觀によつて、全職員が、全生徒が、家庭に於ても、學校に於ても、如何に眞面目であり、如何に風紀が振

（前略）「乃木將軍」の脚本　偉人の眞面目を傳ふるには聊か不足の感ある作に候へ共當世の文士に難きを望むは望むものゝ無理と申すもの致方なかるべし　ソレにしても多少なり共風教上に寄與する處あらば結構に御座候　御來示の如く卷頭に故將軍の陣中作二首書き添へて十勝の令息方へ送り申候　老躯には良き見を持たれしを欽羨に堪へず將來必ず大成眞人間となられ候はんと祝福いたし候

年々大學の門よりトコロテン式につき出さるゝ卒業生幾千人　高文試驗を受くべく神經衰弱の關所を破つて憂き身をやつす青壯年是亦幾千人　斯くて文運は愈々盛にして道義　世態は倍々癈頽し　青壯年の青雲の志を達する能はずして地下の運動に其身を誤るもの年々歳々其數を知らず　春秋の筆法を以てすれば今日我邦の高等教育は人の子を殺す爲に設けたるものと言ふべし　不仁も亦甚しと申すべし　尊躯の教育主義を徹底的に實行せらるゝ事敬服の外なし　やがて況く其足跡を踏むもの續出すべきこと疑なしと存候　（後略）

今日我邦の高等教育は人の子を殺す（記者宛書信の一節）

海軍大將　黑井悌次郎

邪氣餘念のあるは性を移すといふ、教どの教場をのぞいても、緊張そのものであつた。殊に中庭のものであつた。熱心そ

全貌を類推觀取する事が出來たのである。かくて二時間目からは校長が授業があるので、教頭の案内で、記者が二男の屬する四年の一組を見る。冲原教諭の修身の時間であつて、朝禮に於ける校長の訓辭に就いて、問答しつゝ其趣旨の敷衍徹底を期して居る處で

普及徹底して居る片鱗を知る事が出來たので、滿足せざるを得なかつた。次に記者は一時間半に渉つて、運動場に於ける幾組かの體操教練と休憩時間に於ける生徒の、熱心であり朗かである實況を見、最後に校長の修身教授を一瞥して校門を辞したのであつた。

以上吾人の觀察を一括すれば、昨春小檜山校長が、父兄會に於て聲明したる、教育の主義方針は、全職員と協心戮力一體となつて、如實に實行實現し、よく中學校教育の

使命を全うしつゝあるものといふべく、固より記者の理想とする教育改革案と相距る遠しと雖も、少くも現行の制度下に於ける成績としては、滿点の榮冠を奉るに躊躇しない處である。之に仮すに數年を以てするならば、必ずや見るべき成績を擧げ、天下の模範校たる亦難きにあらずと思はれる。（以下二面へつゞく）

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會學藝の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

毎月一回一日發行
本誌定價一部金五錢一ケ年郵税共金四十八錢
發行所　福島縣石城郡内郷村宮字宮澤二
内郷村報社
編輯發行兼印刷人　右全所　振替仙臺八四二〇
大内民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九
株式會社平活版部

東郷元帥　むくり舟うちはらひたる金茫雄も君がいさををあけてた　東京　遠藤二郎

昭和九年六月五日午後五時半より國本神社社前に於て、主催者大内先生夫妻、親戚總代岡村大野雨氏、原村長佐久間校長本田駐在巡査幷に國本神社委員一同參列、高橋社掌司、ッ下に、故東郷元帥國

杉田　桑原　兵次

桑原新八　甲斐根丑太郎　甲斐根丑治　鈴木武七　渡邊利介　安田善一郎　島井榮吉　本田政秋　本田佐市　鈴木卯平治　桑原兵次（順序不同）

(一面よりつゞく)

上司も關係者も大に之を認めて、縱横に其所信を行はしめ、いよ〳〵其美を成さしむべく、父兄亦滿幅の信頼を以て子弟の教育を託すべきであると、痛切に感ぜらるゝのである。

終りに全職員各位に、深甚の敬意を表し、併せて全生徒諸氏の洋々たる前途を祝福して擱筆する。

面目一新せる 磐炭親和會

磐炭に於ては七月一日より社宅世話役の制度を廢し、在來の勞資協力機關たる親和會の會則を改訂し、全山を上層、峰根、平太郎、町田、宮澤、御殿、綴、平の八支部に分ち、從業員より正副支部長、書記及八十四名の世話役を互選し、勞務課長之が會長となり、副會長、理事、賛助員等には幹部役員を以て之に任じ、所長は總裁として之を統帥する事とした。而して其事業の重なるものは、能率增進及災害防止、保健及衛生、生活改善及互助共濟、教育及修養、規律及風紀、慰安及娯樂、會員の幸福增進に關する事項、其他必要と認むる事項等である。

生活改善の申合

磐炭親和會に於ては、生活改善・虚禮廢止・經費節約の目的を達する爲、從來實行し來りたる規約に少しく改訂を加へて之を左の通り發表した。但し相互近親の關係にある場合は本趣旨を諒解の上、之を斟酌し得るのである。

一、贈答、總て贈與の金品は金五十錢以内とし之に對し返禮は勿論饗應等をなさゞる事。

二、婚禮、儀式は莊嚴質素を旨とし調度品は相互分限を守る事。

三、出産、産婦見舞の贈與は省略の事。七夜祝は内祝のみに止る事。

四、初節句、旗幟雛人形等の贈物をせざる事。内祝として旗幟は三本以内人形は一組とす。

五、引越、多數手傳人を避ける事。簡單なる食事茶菓に止る事。

六、軍人入退營、旗は二本とす。除隊土産は廢止すること。

七、歳暮年始中元、近親關係以外は贈答せざる事。新年の廻禮を廢し挨拶の會合をなす事。

八、葬祭、葬祭費は左の限度に止る事。

十六歳以上四十圓。四歳以上十五歳三十圓。三歳以下二十圓。但し特殊の事情により正副支部長世話役棟長會議の上相當に增額を必要と認むるものは理事の承認を受くる事。酒は陸尺及精進明けのみ五升以内を用ふる事。棟長は委員長となり手傳人の員數(男女二十名以内)を定め依頼する事、但し棟長事故ある時は世話役適當の代理者を指名依頼する事。造花花輪供物等の贈與をなさゞる事、委員長は葬儀費計算書を支部長を經て理事に提出する事。

九、新盆、提燈造花類を贈らざる事。

十、總ての會合に就ての指示時間は嚴守勵行の事。

以上

方面委員會と 其取扱事項

六月二十八日午後一時より村役場に例會を開催、重要事項の審議をし終つて田口委員の職業指導講習會受講の報告あり、引續き猪狩委員より疾病除隊兵救護に關し其筋に運動する件の提議あり、一同之に賛同し、近く開催の郡總會に提出する事とし、猪狩委員其説明に衝に當る事に決定した。次に六月中取扱事項左の如し

昭和九年六月分

生活扶助、法令による者二六、然らざるもの一。保健救療、法令によらざる者二兒童保護、法令によらざるもの五〇。指導相談十九。戸籍整理四。職業其他紹介三四。教化九。其他六。計一五一。

第一種世帶數三三、人口一二一。第二種世帶數九四、人口四四五。第一種より第二種へ變更世帶九、人口二二。生活安定世帶數二六人口五二。

田口委員

は六月十三日より三日間郡山に開催の職業指導講習會に出席、其報告は次號に掲載する。

高坂青年の美擧

明治二十八年臺灣三角湧の名譽の戰死者中村定次郎氏の墓域が聊か荒廢したるを見る高坂青年分團員は、之が修理の議を起し、奔走盡力の結果六十余圓の寄附金を得、此程碑の基礎工事を施し玉[illegible]と築造、簡礎なる慰靈祭を執行し、殘餘金拾余圓は今後の弔祭金として故人の實兄安太郎氏に贈呈したる由。寔に機宜を得たる美擧といふべく尚勞力は團員の奉仕であつたのである。

(田口生投稿)

敬神信徒會

東海林保次、渡邊恒重、木村武夫、鈴木要助の四氏發起者となり、百四十四名の賛同を得て、八聖山、月山湯殿山、羽黒山の祭神信徒會を組織し、六月十七日特に八聖山神宮大瀧速見氏を招聘して、高坂山神社に於て、各坑代表猪狩擔任以下多數參列の下に、嚴粛なる祈願式を擧行した。

敬神信徒會記念

◎本紙賛助金寄贈芳名

金五圓　内鄕　無名氏
金壹圓　郡山　松山政治
金貳圓　内鄕　馬目太平治
金壹圓　同　高柳金三郎

(第三種郵便)

磐炭の好況
八分の配當を行ふ
磐城炭礦では、こゝ數年來[illegible]に對して、學用品一袋と給

三校長の光榮
高坂校長佐藤一氏は六月十七日本縣教育會創立五十年記念式の當日、多年教職

矢野恒太序　大内民惠著
服部宇之吉
教育制度改革概論
(四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢)
我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。
君を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大綜神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

簡閲点呼
伯の畫[illegible]開催、四十余名の參會者あり、會後畫伯の有益なる講演があつた。
本村本年の行せらるゝ事に決定した。

壯丁檢査
本年本村の徴兵受檢者五百五名中、甲種合格者五

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　内鄕村報社

磐炭の好況

八分の配當を行ふ

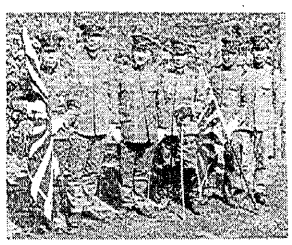
磐城炭礦では、こゝ數年來本社も山元も共に、それこそ臥薪嘗膽、諸般の費費を省き、能率增進、販路擴張に努力し、時期到來を待ちつゝあつたが、炭界の好況來によつて、漸く其甲斐あらはれ、前期には五分を、今期には八分の配當を行ひ三百余名の役員には三ヶ月乃至六ヶ月分のボーナスを四千余名の從業員にはそれぞれ總花的に酒肴料を頒與した。

村内小學校の修學旅行

村内四小學校の上級生六百二十九名は、六月十九日四校長三十八名の職員、村長各學務委員、各校醫、三看護婦及保護者有志十五名に附添はれ、特別仕立列車にて午前三時四十六分綴驛發同八時三十分上野驛着、宮城遙拜、明治神宮、靖國神社淺草觀音參詣、遊就館、上野公園、動物園、地下鐵道等を見學して、午後四時四十分上野發同八時四十分無事綴驛に歸着した。磐炭本社では小島隅田柴田の諸氏をして歡待せしめ、全兒童に對して、學用品一袋と繪端書の寄贈あつた由。費用は一人當り一圓九十錢で、村からは内七十錢の補助があつた。尙極秘裡に二十四名の貧困兒童に對しては兒童教育後援會より、一人當り一圓五十錢づゝを給與し、何等の不自由氣兼ねもなく、此一行に加はらしめた事は、特筆に値すべきものであつた。

鄕軍支部大會出席代表

五月十六日須賀川に開催せられた鄕軍福島支部大會に内鄕分會よりは大越薗部南理事岩城班長、磐城分會よりは小島分會長上原副長松本旗手出席して其使命を全うした。因に小島氏轉任につき、上原氏分會長に前川氏副長に決定した。



右より　岩城　薗部　小島　松本
上原　大越　南　諸
氏　氏　氏　氏

支部大會出席代表

三校長の光榮

高坂校長佐藤一氏は六月十七日本縣教育會創立五十年記念式の當日、多年教職に携り其功勞顯著なるの故を以て功勞賞を以て表彰され、宮校長柴田正則氏は六月三日石城郡教育部會に於て二十五年勤續者として榮譽ある表彰をうけ又内町校長堀一郎氏は高等官八等の待遇をうける事となつた。

村會

六月八日、同二十五日同二十九日の三日に渉つて開會、村税戸數割匡救事業施行、小學校敷地校舍の件等十件の原案について審議決定した。

プール

六月二十日より磐炭プール開場四項二十目の注意書を全山に配付した。

映畫大會

在鄕軍人會内鄕分會炭礦分會主催にて六月二十四日晝（小學生―記念館）夜（一般―昭和館）に於て開催純益金は軍事方面に使用するとの事であつた。

衛生展

六月十六日より三日間、淺野翁記念館に於て、磐炭健康保險組合主催にて衛生模型展覽會を開催。入場者三千七百三十七名の盛況。

拔天畫會

本社後援にて六月十四日淺野翁記念館に於て、時事新報漫畫記者長崎拔天畫伯の畫會開催、四十余名の參會者あり、會後畫伯の有益なる講演があつた。

簡閲点呼

本村本年の簡閲点呼は八月十一日高坂校に於て擧行せらるゝ事に決定した。

壯丁檢査

本年本村の徵兵受檢者五百五名中、甲種合格者五十八名を出した。但し入營者は未定。

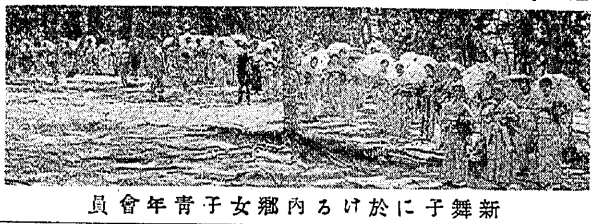
新舞子紀行

上層勞務擔任　武藤義造

我内鄕女子青年會が呱々の聲を擧げたのは昨年の十月であつた。お蔭樣で會員數も百余名に達し、着々處期の事業に向つて進みつゝあるを得るは、之れ偏に全山各位の指導聲援の賜であると感謝して居る次第である。而して其行事の一たる郊外遠足が五月二十七日の海軍記念日に擧行せられたのである。惡まれたる好天氣、目的地は新舞子、豫定通り午前八時淺野翁頌德記念館前に一同勢揃ひをする。會員五十四名我等を加へて六十五名の一隊。高坂下の田圃道から新川ぶちに道をとつて、蜿蜒長蛇の如く繰出す。今日をば晴れと千紫萬紅のよそほひ、色とりどりの洋傘をかざして、さながら胡蝶の舞ふが如くに、袖ふりはひてれり行けば、野に働く人も、道行く人々も手を休め足をとゝめて送迎する。

九時十分清き夏井川の流にのぞめる若葉の森、白土の八幡神社に着く、こゝに少憩して記念撮影をする。それより山崎なる淨土宗の名刹專稱寺に參詣。本堂で大内先生から淨土宗と南無阿彌陀佛のお話を承る。寺を降つて最後のコースを夏井川に沿ふて下り六十枚橋を渡り（但し橋は落ちて板二枚の假橋を辛うじて渡る）て田の畔、畑の畦を無茶苦茶に歩いて正午新舞子に着く、とある茶店にほこりを拂つて、銘々持參の辨當に舌鼓をうち、目もはるかなる海のあなたより吹き來たる潮風に髮をなぶらせつゝ、白砂青松の間を思ひ〳〵に散歩徜徉、或は笑ひ興じ、或は戯れ遊ぶ。かくて何時までもとは一同の望む處であつたが、汽車の時間に後れてはと、名殘を惜んで二時出發、息せききつて草野驛に駈けつけ漸く間にあふ。顏も髮も汗とほこりと日燒とで、さすが胡蝶の面々も聊か哀へた形、されど喃々喋々の朗かさは相も變らずで談笑のうちに綴驛に歸着四時十分目出度く解散した。

終りに此日行を共にして何かと斡旋の勞をとつて下さつた、大内、國分、大瀧、猪狩、井上、井砂、松本、藤田、鳥羽の諸氏の勞を謝して筆を擱く。



新舞子に於ける内鄕女子青年會員

磐炭親和會に於ては、生活改善・虛禮廢止、經費節約の目的を達する爲、從來實行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

矢野恒太序　服部宇之吉
大内民惠著
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵税六錢）

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　内鄕村報社

磐炭親和會に於ては、生活改善・虛禮廢止、經費節約の目的を達する爲、從來實

六、軍人入退營、旗は二本とす。除隊士産は廢止すること。

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　内鄕村報社

事項の審議をし終つて田口委員の職業指導講習會受講の報告あり、引續き猪狩委

が修理の議を起し、奔走盡力の結果六十余圓の寄附金を得、此程碑の基礎工事を施し玉ふと築造、簡礎なる

内鄕　無名氏　金五圓
郡山　松山政治　金壹圓
内鄕　馬目太平治　金貳圓
同　高柳金三郎　金壹圓

國本神社

海軍大將正三位勲一等功三級子爵 東郷平八郎謹書

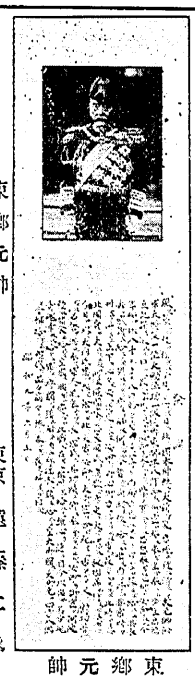
國本神社は福島縣安達郡杉田村にあり　我大内家の氏神にして神宮幷に全國の官幣國幣二百社の祭神を齋祀す　昭和九年六月五日更に東郷元帥の英靈を合祀し奉る　祭主　大内民惠　謹誌

御神號　堅井大將謹書

祭詞

風波薫禮杼枝母搖賀奴今日乃悲志伎日爾此乃國本神社乃大前乎嚴乃岩境止祓比清米豆故元帥海軍大將從一位大勳位功一級侯爵東郷平八郎命乃御靈乎招伎奉里坐世奉里豆齋主高橋直記謹美敬比母白左久畏伎加母悲志伎加母汝命也今爾志豆此事有良牟止波思懸奉里伎也抑母汝命波也今年始津頃八十あまり八の齢を重ねるは守りの神の惠みなりけり止詠萬世給比豆其長壽乎感謝毘給比志止聞伎津留爾守里乃神波何志加母今暫志乃御齡波授介給波奴世波内爾外爾非常時乎叫毘爾叫毘天上下乃心々波安久得定萬良受汝命乃御心御力乎待津倍伎事母最多加里志爾此時爾志母此乃國寶乎失比津留波阿波禮國家乃悲哀國民乃痛歎母亦更爾大奈留倍伎故國葬乎行波世良留々今日乎以豆大内民惠伊豫豆祭禮留此乃大宮爾汝命乃大御靈乎合世祭里豆古々多久乃勳功著志留伎名譽乎偲毘奉里軍人乃亀鑑止志豆長久國民爾其功績乎仰伎奉良志米牟止須汝命乃御靈也阿波禮止聞食志給比豆皇國乃興留母廢留母此戰爾在里止雄叫毘給比志雄心乃隨爾自今以後母其幸魂奇魂幸波比給比天軍乃守國乃鎮止神奈賀良彌遠長爾鎮里給比天皇大御國乃大御光乎四方八隅爾令輝給閉止禮代乃品々高々爾捧介奉里天畏美拜美母白須　昭和九年六月五日

家の守り國の鎮めと氏神にいまし命を祀る今日かな　民惠



東郷元帥

東郷元帥　高橋社掌祭詞

むくり舟うちはらひたる金茫雄も君がいさををあげてたむ　東京　遠藤二郎

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

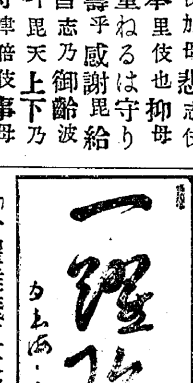
毎月一回一日發行
本誌定價一部金五錢一ヶ年郵稅共金四十八錢
發行所　福島縣石城郡内郷村字宮前二　内郷村報社
編輯發行兼印刷人　右全所　振替仙臺八四二〇　大内民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　株式會社平活版部

故元帥の靈は護國の神

（記者宛書信の一節）

海軍大將　黑井悌次郎

東郷元帥の永眠されしは悼みても餘あり　さりながら元帥の高敎を受けたる將士　我海軍に乏しからず事海軍に關する限り決して懸念に及ばじ　將軍の前に將軍なく　將軍の後に又將軍なし　とはいへ彬々たる多士我海軍を磐石の安きに置くに於て蓋し故元帥の精神氣魄を襲ぐもの少なからず　故元帥の靈は護國の神として永へに國を守ると同時に故元帥の無言の訓陶を蒙りたる後進相結束して國事に盡すに於ては帝國たるもの眞に貧乏ゆるぎさへなすものにあらず　可喜可祝



「一躍雄飛五大洲」　日本海々戰第三紀念日　源磐根

これ全國の嚆矢

（記者宛書信の一節）

二本松　七島德太郎

（前略）先日は御夫妻御揃ひにて御來訪を忝うし奉感謝候　さて東郷神社建設の議全國に唱道せられつゝある今日　貴臺には率先しかも國葬當日に於て　其氏神國本神社に元帥の靈を合祀せられたるは　これ全國の嚆矢といふべく　御高擧に對して衷心より敬仰すると共に奉慶賀候　右紀念の爲日本海々戰第三紀念日當日特に故安部井磐根翁に御揮毫を願ひ家寶として秘藏いたし置きたる「一躍雄飛五大洲」の一幅を贈呈仕候に付御受納下さるべく候云々　（後略）　六月十三日

國葬遙拜式並に合祀祭參列記（大要）

杉田桑原兵次

昭和九年六月五日午後五時半より國本神社社前に於て、主催者大内先生夫妻、親戚總代岡村大野兩氏、原村長佐久間校長本田駐在巡査幷に國本神社委員一同參列、高橋社掌司下に、故東郷元帥國葬遙拜式並に合祀祭を擧行す。先つ高橋社掌の嚴粛なる御祓あつて英靈を齋き奉り、祭詞朗讀あり一同玉串を奉奠して禮拜す。次いで大内先生より莊重なる挨拶ありて式祭を終り紀念撮影をなす。式後先生邸黑井將軍寄贈日本海々戰大扁額を掲げある廣間に於て鄭重なる晩餐の饗應をうく。先生の此擧は、先生が常に國民精神の涵養を絶叫せらるゝ一端の現れにして全國の先縁をなすものと、一同感激のうちに散會す。

參列者氏名。高橋直記　大内民惠　大内きみ　岡村常助　大野運吉　原德左工門　市川清治　桑原長七　佐久間清一　大澤堂賢永　本田亀吉　山林堂博信　村田佐市　大友政蓉　鈴木長市　桑原三右工門　鈴木長藏　安田平吉　鈴木亥之介　桑原新八　甲斐根丑太郎　甲斐根丑治　鈴木武七　渡邊利介　安田善一郎　鳥井榮吉　本田政秋　田佐市　鈴木卯平治　桑原兵次　本（順序不同）

東郷元帥國葬遙拜式幷合祀祭記念

（昭和八年八月八日第三種郵便物認可）

内郷村報

天法人則
二從順ナ

神妙に聞いて居る職員達も五百の健兒も、其面上何れも眞劍さが現はれて居つたには、先つ敬服させられたるに、先生方は何れも其席にあつて孜々として執務されて、煙草をふかしたり、雜談に耽けつて居る影なとあつた。記者は之によつて校長の訓辭は啻に生徒に對する訓諭たるのみならず、職員全體に對する告示とな